

令和元年度実施分協働事業 協働のまちづくり協議会からのコメント

事業名	団体名	事業担当課	評価(コメント・アドバイス等)
災害時要配慮者支援事業	小金原地区会(小金原連合町会)防災部	危機管理課	<ul style="list-style-type: none"> <li>●要配慮者、乳幼児の親子を対象とした防災フェアは、多くの当事者が参加できて良い企画でした。</li> <li>●小・中PTAとの連携がはじまり、地域住民により密着したシステム構築、防災意識の広がり期待します。</li> <li>●「ももの会」の活動により、異なる属性の住民同士が横連携したのは、2019年度事業の特筆する成果だと評価します。</li> <li>●専門家の連携は目論見どおりにいきませんでした。連携するのに必要な条件を分析し、次の手を検討していますので、道筋は見えていると思います。全体と言えるのは、事業実施の中で気づいたことを団体と危機管理課が共有し、次の取組に反映させる努力によって、本事業は小金原地区に根を張った事業に成長してきたと評価します。</li> <li>●防災活動と一言で言っても、その内容は多岐に渡ることがこの活動を見ていると分かります。今回は要配慮者支援となっておりますが、対象は幼児、高齢者、障害者など様々で、取組みも一概ではありません。それを丁寧に取り組んでいるところは非常に評価できると思います。又女性部会として「ももの会」の活動は、女性の視点からの防災を考える重要な役目を持っていると思います。ついつい防災は助ける人と助けられる人に分けられそうですが、皆で助け合う互助の気持ちで臨むことが必要かと思えます。諸活動を通じて多くの住民にその考えを伝えて下さい。</li> <li>●防災と福祉の視点や、乳幼児にスポットを当てた取組みは、松戸市と地域住民が協働する先駆的な事業であるかと思えますので、市と協力しながら、ぜひ、他地区にも拡大していけるような取組みも考慮しながら継続して頂きたいです。</li> <li>●専門職の人と危機管理について連携を取るには、お願いして専門から少し外れてイベントに参加してもらえるような状況を作るように努力したら如何でしょうか。</li> <li>●地域住民(保育、要配慮者含む)に対し、発災後の対応方針のスケジュール(1~3日、4~7日、8日以降)を作成されると全体イメージが理解しやすくなり、次の行動が取り易くなるので皆さんに浸透するかと思えます。</li> <li>●発災後は、現場の臨時場所で生活維持・改善するために女性が重要な役割を果たすと思えますので、「ももの会」中心にアグレッシブに動かせるように企画してください。</li> </ul>

令和元年度実施分協働事業 協働のまちづくり協議会からのコメント

事業名	団体名	事業担当課	評価(コメント・アドバイス等)
公共サイン改善事業	公共サイン研究会	都市計画課	<p>●2回目の協働事業では、地域により深く入り込むことで新たな気づきがあり、ひとつの団体、行政だけの協働から多様な市民団体と連携することで課題解決、公共サインの本質を見極めたところが団体にとっても行政にとっても成果ではないでしょうか。</p> <p>●公共サインは、多くの市民がその重要性を理解するのにはなかなか難しい主題でしたが、それでも地道に公共サインの意味の啓発に努め、松戸市の方向性を見出そうとして来たことは、たいへん素晴らしい取組であったと評価します。そして、都市計画課においては、この課題を市の検討俎上に乗せたことは、初めの一步を踏み出したと評価します。この事業は一区切りが付きましたが、今後の話として、地元の「知の拠点」である大学の学生・院生の問題意識を背景とした、若い世代の取組を松戸市が積極的に受け止め、あるいは促し、協働のまちづくりへ新風を吹き込むことを期待します。</p> <p>●当初、松戸の「公共サインの見直し」から始まった活動も、内容がどんどん深まり、各地域の歴史、文化、景観を探る活動に変化したことは素晴らしいことと思います。それをまとめた上で最終的に地域を表現しつつ松戸市全体としてのまとまりがあり、デザイン的にも優れた公共サインを完成させることがこの活動の終着点ではないかと思います。「たかが公共サイン、されど公共サイン」です。今までの実績を踏まえた上で、何とか形になることを祈念します。</p> <p>●松戸市の公共サインについて理解を深めてもらうためには、小学校での地元学習の中で取り上げてもらうことや、高校生等の探究に関する授業と関連させて考えてもらう等、これからの松戸を担う若い人たちを対象にしていくことが重要かと思います。また、市民レベルでの普及は、公共サインに関する定期的なフォーラムやコンテスト等を行って、地域で自分ごととして考えてもらう機会の創出も必要であるかと思います。さらに、松戸では外国人の暮らす人の数も増えているため、外国人の視点からの公共サインについて考えてもらうWS等も実施することで、彼らにもわかりやすい、そして、新たな視点の創出にもつながるかと思います。</p> <p>●励みや目安になるので、公共サインとして評価の高かったもの(既存又はオリジナル)を成果として公表してもらっては如何でしょうか。</p>

令和元年度実施分協働事業 協働のまちづくり協議会からのコメント

事業名	団体名	事業担当課	評価(コメント・アドバイス等)
子どもたちがつくる青少年会館居場所事業	だいすき松戸！子どもフェスティバル実行委員会	生涯学習推進課青少年会館	<ul style="list-style-type: none"> <li>●中・高生が主体的に役割を担い、参加するプログラム事業は、この3年間継続して積み重ねてきたことで成果を生み出していると思います。</li> <li>●大人がすべてを用意するばかりでなく、子どもが自分たちで取り組んで達成感を得る工夫と配慮が本事業の要点であると評価します。</li> <li>●青少年会館を場に3年間実施してきた本事業は、目論見どおりの成果を得るばかりでなかったと思いますが、それでもPDCAマネジメントを意識しながら反省と改善を重ねて、たいへん価値ある事業に成長してきたと評価します。3年間の協働事業で獲得したノウハウを青少年会館の事業ならびに団体の事業へ継続して活用することを期待します。</li> <li>●「だいすき松戸！子供フェスティバル」「文化祭」「クリスマス会」「夏休みプログラム」と多彩な催しものを企画・運営し多くの子供たちに楽しい居場所を提供している活動は、地域に定着してきた感があります。又、運営に関わるサポーターも育てていく姿勢は大変評価できるところです。現在のコロナ禍においてもオンラインを利用したイベントを進めているとの報告がありましたが、今後の精力的な活動を期待しています。</li> <li>●異年齢のつながりによる人の交流の居場所を上手に創出することで、居心地の良いまた参加してみたくなる雰囲気のできたのではないかと思います。中・高生も企画に回る体験を重ねているとのことで、今後も、若い人が自主的に地域活性化に参画する仕組みもできるのではないかと期待しています。</li> <li>●「青少年会館」を拠点とすると、今後の事業展開に限界が感じられますが、事業方法として中高生が自分たちで取り組む企画や、自分たちの経験を踏まえ小学生向けのイベントを企画するのは評価されます。</li> </ul>

令和元年度実施分協働事業 協働のまちづくり協議会からのコメント

事業名	団体名	評価(コメント・アドバイス等)
「甚左衛門の森」保全育成事業	松戸里やま応援団「甚左衛門の森の会」	<p>●森の整備が順調に進んだのは、地道で継続的な活動の成果です。森の保全活動は人手がかかるものなので少しでも多くの関わる人を増やしたいですね。活動日を具体的に示し、体験活動やおためし活動日を設定してはどうでしょうか。</p> <p>●オープンフォレストの取組以前、私有地である「甚左衛門の森」は周辺住民には「見えていない」場所であったと思います。保全育成の取組によって、この里森の姿が住民に見えるようになり、2年度目の本事業で住民が身近に感じる里森に近づいたと評価します。</p> <p>●我々が普段目にして「ああ、自然がいいよ～」と思っている森が、どれほど維持するのが大変なことか、この活動報告で理解することが出来ました。そしてその活動の中で市民の参加できる場「オープンフォレスト」を設けていることは、森林の大切さ、楽しさなどを理解してもらう絶好の機会ではと思います。台風などの自然災害や、ごみの不法投棄などと対処し、「緑豊かな街、松戸」のイメージを維持していく為にも、この活動を精力的に進めていただければと思います。</p> <p>●報告書によると、地域住民や周囲の学校等が、まだ、本事業で整備されている森について利用することはできていないということでした。地域住民が森の保全・利用や維持管理の重要性により一層気づいてもらうためには、地域住民や学校向けにこの森のことを学ぶ環境教育をベースとした体験型のスタディツアー等を地道に開催し、地域の人たちができるだけ多く関与していけるような段階的な学習プログラムを準備・実施・評価して提供していく必要があると思います。</p>

令和元年度実施分協働事業 協働のまちづくり協議会からのコメント

事業名	団体名	評価(コメント・アドバイス等)
<p>学習支援 と食の提供による 子どもの 居場所作り事業</p>	<p>まんぷく小屋</p>	<p>●コロナ禍でさまざまな制限がある子どもたちの暮らしにとって、貴団体が運営する居場所がますます重要になっていると思います。地域住民にも情報発信し、物資提供や子どもの見守りなどさまざまな関りを広げていただきたいと思います。</p> <p>●2017年から始まったまんぷく小屋は、子どもにとって愉しくてワクワクできる放課後に立ち寄る場、大人の眼からして安心して子どもが立ち寄れる場だと認知されてきたと思います。まんぷく小屋の取組は、大人たちが子どもらの未来の選択肢を増やす取組の一つです。</p> <p>本事業によって、その取組が地域へさらに浸透する好機になったのなら幸いです。</p> <p>●この1年で、活動がいろいろな方向に広がりを見せている様子が報告書からうかがえます。週に1回といえども15人～30人の子供が集まり食事を用意し、それぞれの子供たちの勉強に対応するのは、かなりのエネルギーが必要かと思えます。その中で接する子供の成長や目標が達成した時の喜びを感じる事がスタッフの喜びになるのではないのでしょうか。今後はコロナ禍で活動に対する影響もあると思えますし、経済の後退で子ども食堂を必要とする子供も増えてくる可能性がありますので、この活動に期待するところが大きいです。</p> <p>●学習支援を含む子ども食堂は、各地域において重要な役割を果たすようになっていきます。社会的包摂へ向けた地域のつながりをつくっていくためには、様々な関係者の協力・連携が重要であるかと思えます。この場所に関わる人たちの輪を大切に英知を結集させながら、報告書にも書かれていた中・高生への対応に向き合ってもらえればと思います。</p> <p>●年齢層の異なる中で子どもがその中で育つのは本来の社会の姿であり、そこで揉まれて得られる経験は将来生きると思えます。「子ども食堂」は、大人の指導を基に子ども主体で、買出し～料理～片付けなど、ひと通りの体験を通じて次に活かすとするのは如何でしょうか。</p>

令和元年度実施分協働事業 協働のまちづくり協議会からのコメント

事業名	団体名	評価(コメント・アドバイス等)
子育てが 楽しくなる 地域コミュニ ティ事業	なないろ のもり	<ul style="list-style-type: none"> <li>●本事業で計画していた3つのイベントが実施できたのは何よりでした。目標人数の7割の実績ですが、来場者とのコミュニケーションが図れたことは、来場者の満足度を高める要因になったのではないかと思います。イベントにより子育て世代のつながりや出会いの場を提供したのは、本事業の結果です。</li> <li>●イベントの協力者が32人いたことは、本事業の成果です。貴団体の趣旨に賛同し、協力する人たちは大切な存在です。その手を放さないようにしてください。</li> <li>●1年間で3個のイベントを企画運営して延べ990人を集めた実績は大変高く評価されます。又、今後の運営にかかわる協力者を募って行く姿勢は活動を継続させるためには重要なことと思います。人を集めるイベントは現在のコロナ禍の中では益々難しくなっていくものと思いますが、今までの実績を踏まえて前進して下さい。</li> <li>●報告書にもあるように、若い子育て世代の人にイベントの運営に携わってもらうためには、子育て世代のイベントで自分たちの活動を紹介すること、口コミで広げて頂けるファンを増やすことやSNSを通じて子育て世代のサイト等、ニーズのありそうなところに情報を直接届けていく必要があるかと思しますので、ぜひがんばってください。</li> <li>●実際は実行されていると思いますが、この事業で、子育てに悩む人たちへの相談窓口も行えば、さらに参加者や相談者との連携も取れるのではないのでしょうか。</li> </ul>

令和元年度実施分協働事業 協働のまちづくり協議会からのコメント

事業名	団体名	評価(コメント・アドバイス等)
音楽活動による街の活性化事業	松戸音楽活動同好会	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 目標にした回数の音楽会、コンサートを着実に開催され、多くの市民が参加したことは評価いたします。現状コロナ禍での施設訪問は制限されていることと思いますが、今後はどのような形なら可能なのか検討し、活動そのものを継続することに期待します。</li> <li>● 同好会の枠を超えて多様な活動を数多く市内で展開したエネルギーに感服します。当初の目論見どおりにならなかった引きこもり高齢者や障害者(児)との地域交流などの積み残しは、やり方を変えて継続し取り組むことを期待します。</li> <li>● 1年間の活動量は圧倒的であり、参加者の延べ人数が目標の倍近くを達成しているという実績は、大変高く評価できるのではないかと思います。運営しているスタッフは大変ではないかと思うのですが、無理なく楽しく活動をしているとの回答を見ますと、益々「すごい」と思ってしまう。今後とも音楽を通して多くの人達に幸せを届けてください。</li> <li>● 開催数の多さ、満足度も高く、音楽の魅力を通じた街の活性化に貢献している取組みと言えます。報告書にもありましたが、引きこもり、独居高齢者や障害者(児)も音楽会にぜひ参加できるように、民生委員や町内会と連携・協力しながらぜひ実現して頂き、社会的弱者も楽しむことのできる音楽の街「松戸」の発展に期待したいと思います。</li> <li>● 楽しんで活動されている様子が伺えます。くれぐれも健康に気を付けて皆さんを楽しませてください。</li> </ul>

令和元年度実施分協働事業 協働のまちづくり協議会からのコメント

事業名	団体名	評価(コメント・アドバイス等)
<p>みんなで 楽しもう秋 のお出かけ 事業</p>	<p>認定特定 非営利活動 法人たすけ あいの会ふ れあいネット まつど</p>	<p>●高齢者・障害者の参加も然ることながら、本事業の要点は市民ボランティアの存在だと思っています。目標人数15人に達しませんでした。それでも11人の市民ボランティアを得て、一部の人と継続的な関係ができたことは本事業の重要な成果だと評価します。今後も継続的な市民ボランティアの発掘と関係づくりに期待します。</p> <p>●秋の行楽シーズンとはいえ、中々外出が儘ならない高齢者や、障害者にとって、ボランティアが付き添いバスで移動ができるこの活動は安心して楽しめる小旅行になったのではないのでしょうか。せつかくの好企画なので、今後は広報を工夫していただき、多くの方が行楽を楽しめる機会を作って下さい。</p> <p>●高齢者や障害者と関わる機会を創出することは、福祉がより一層重要視される中で必要な取組みであるかと思えます。そのため、高齢者や障害者への理解を深めて関わることのできるボランティアの育成や参画にも焦点を当て、進めていくことが大切ですので、ぜひ、がんばって下さい。</p>

令和元年度実施分協働事業 協働のまちづくり協議会からのコメント

事業名	団体名	評価(コメント・アドバイス等)
野良猫捕獲と不妊手術の悩み解消！地域猫スタート相談会事業	松戸地域猫スタートサポート	<p>●相談会に参加された方々が交流し、グループができたことは大きな成果です。市内各地域に活動グループができてきたら、情報交換会を企画するなどグループ同士のつながりをつくることをおすすめします。ネットワークで地域ねこの活発な活動展開が可能になるのではないのでしょうか。</p> <p>●地域猫スタート相談会の参加者が目標を上回る人数であったこと、相談会の参加者から活動する人が現れていることは、この事業に係るニーズが存在していた証しだと言えます。そのニーズをしっかりと受け止め、一過性のものではなく、持続的な取組にしていこうとする貴団体の問題意識と姿勢はたいへん評価します。</p> <p>●本事業は、松戸市内に地域猫活動の土壌を耕し、種を蒔き、芽が出て苗が成長するのを促す、いわば地域猫活動の中間支援の試みだと見ています。2019年度で得た結果と改善点を踏まえて、松戸市内の地域猫活動の中間支援が伸びるように引き続き活動を進めてください。</p> <p>●地域猫活動に関心のある方がまだ少ないようですが、活動を通して徐々に広がりを感じる結果を伺えます。今後も継続的な活動を続けていく中で生き物の命の大切さと、「地域猫問題＝環境問題」という認識が広がることを期待します。</p> <p>●地域社会の中で、飼い主がいなかったりした場合の野良猫への対応を考えていくことはとても重要なテーマであると思います。ぜひ継続して取組んで頂きたいですが、具体的な課題の洗い出しや解決アプローチを考え、その解決へ向けた実践的な取組み事例を増やして頂き、私たち住民へ具体的な内容を提示して頂くことを期待しています。</p>

令和元年度実施分協働事業 協働のまちづくり協議会からのコメント

事業名	団体名	評価(コメント・アドバイス等)
プレママ教室事業	ぶぶぶママ大学	<ul style="list-style-type: none"> <li>●計画では3地域での開催であったが、同地区で3回開催と変更されているが、なぜ東松戸地区で参加者が少なかったのか、地域の状況を検証し、次につなげましょう。参加者同士が知り合うきっかけづくりにもなり、産後、育児の仲間づくりとしても期待します。</li> <li>●参加者の高いアンケート評価からしてもプレママ(パパ)のニーズに応えたものであったと評価します。それゆえ想定対象者の参加しやすい条件づくりができなかったのは残念でした。</li> <li>●本事業の根幹を成す産後鬱や虐待を予防する問題意識はとても重要なものなので、今回の反省と改善を踏まえて、引き続き活動を進めて行くことを期待します。</li> <li>●日本の高齢化社会問題の解決の糸口は子供を増やしていく以外に無いと思います。現在それが出来ないのは、多くの女性が出産・育児に対して消極的になってしまう社会環境があるのではないのでしょうか。そこを少しでも良い方向へ導くべく、この活動があると思います。子供を授かることは母親にとっても父親にとっても大きな喜びになるはずで、今までの経験・実績を踏まえて活動を継続発展させていくことで社会が少しずつ良い方向へ向かうことを期待します。</li> <li>●育児や出産に役立つ内容でプレママ教室を開催する意義は大きいと思います。広報に関しては、育児や出産に関連のあるイベントでの紹介、口コミをしてくれるファンをできるだけ増やすことやSNSを通じて直接ニーズのある対象者へ情報を届ける等、必要とされる人たちに情報を発信していくことが参加者の増加につながっていくと思います。広報の手間はかかりますが、ぜひがんばって下さい。</li> <li>●今後の事業展開に挙げている5つの対策を実行することは良いと思います。特にチラシを町内会の回覧板に挟むのと産婦人科に置かしてもらうことで効果が挙がるように思えます。</li> </ul>

令和元年度実施分協働事業 協働のまちづくり協議会からのコメント

事業名	団体名	評価(コメント・アドバイス等)
マジック演技を通し高齢者に元気をあたる事業	和気あいあいマジッククラブ会	<ul style="list-style-type: none"> <li>●マジック演技を習得し披露したい気持ちを充足させ、かつ高齢者施設等のレクリエーションを活性化させる、一挙両得の結果を得た事業だったと評価します。</li> <li>●マジックは種があると分かっているにもかかわらず不思議な気持ちにさせられます。おそらく公演先では大いに盛り上がりを見せたものと思います。但し、種を知っているだけでは演じることは難しく、繰り返し練習をすることで人を楽しませるレベルのマジックが完成するものと思います。実績の中でも、出演回数や対象人数に合わせて練習回数が報告されていますが、大変頑張っていて活動がされていることが伺えます。マジックは子供も大好きですから、今後児童・幼児向けに公演を広げていくという目標は大変期待が持てます。</li> <li>●マジックを通じて高齢者との交流を図り、彼らにエンターテインメントを提供していく取組みはとても意義のある活動だと思えます。ぜひ、継続して頂くと共に、報告書にもある「児童・幼児向けの出前公演」の数も増やし、マジックの楽しさやそれを通じた異年齢層間もしくは相互での交流の輪を広げていくことを期待します。</li> <li>●時間と体力が可能であれば老人福祉施設以外にも保育園、子供会、他の集会参加等、別のチャンスがあれば進めて下さい。</li> </ul>

令和元年度実施分協働事業 協働のまちづくり協議会からのコメント

事業名	団体名	評価(コメント・アドバイス等)
音楽活動による地域交流事業	Ensemble Ponte	<p>●3月に予定されたコンサートはコロナの影響で中止されたこと残念でした。不安を抱えて過ごす高齢者が多いと思われ、少人数の参加でも工夫した歌声コンサートの開催を検討いただき、活動の継続に期待します。</p> <p>●本事業は、貴団体がこれまで回を重ねてきた「Ponte歌声コンサート」を拡充させるもので、その目標とした参加人数、満足度、認知度に一定の結果を出した努力はたいへん評価します。</p> <p>●年間4回のコンサートでリピート率が8割もありますと、毎回違う内容のプログラムが必要になると思います。手持ちのレパートリーは多くあると思われませんが、随時新しい曲をマスターしていくことに苦勞されているものと想像します。しかし、音楽は聴くことも楽しいですが演奏者もまた表現する喜びを味わっていると思います。最近ではコロナ禍で活動に支障が出ていると思いますが、これからは素敵な音楽で多くの方に喜びを与えて下さい。</p> <p>●日本の童謡・唱歌等、音楽の持つ魅力を若者に伝えていくという考え方や、特徴のある楽器の音色を活かして参加者の非日常感を体験して笑顔や感動の溢れる時間・空間を創出している貴団体の取組みは、私にも共感を呼ぶものがありました。今後も、ぜひ継続して頂き、より多くの方が参加してもらえよう、報告書にも記載がありました広報にもより一層力を入れて頂ければと思います。</p>

令和元年度実施分協働事業 協働のまちづくり協議会からのコメント

事業名	団体名	評価(コメント・アドバイス等)
<p>小学生の夢を育む放課後改革/情報サポート事業</p>	<p>MIRAIのしるし</p>	<p>●申請のあった「ボランティアグループへのプログラム構築のためのフレームワーク提供やプログラム開発・実施サポート」は最も期待するものでした。残念ながら未実施となってしまいましたが、今後はグループの体制づくりに期待します。</p> <p>●本事業の背景にある問題意識と、それにもとづく事業内容は、興味深いものでしたので成果を期待していました。コロナ禍の影響による一部事業の中止は想定外としても、貴団体の現時点における実務能力および体制の見立てが甘く、目論見とおりに事業が遂行できなかったのは残念です。</p> <p>●小学生の放課後に係る課題の設定は大切な切り口ですので、本事業で得た反省と改善点を踏まえて引き続き活動されることを期待します。</p> <p>●この1年間の活動の中で出来た事、出来なかった事と色々ある中で、皆様も次への取り組みが見えて来ているように思います。活動の中で接した子供たちにとっては楽しい時間が過ごせたのではないのでしょうか。現状のコロナ禍という未曾有の状況の中で、更なる工夫をしていただき、子供たちあるいはボランティアの方に有意義な場を提供するように頑張ってください。</p> <p>●小学生の放課後の閉塞感の解消、放課後の時間を充実させる取組みや、それに関わるボランティアの参画を図るという視点は、意義のある活動であると思います。ぜひ、今後も継続して活動頂き、今回の仕事体験のテーマのように、小学生が前向きに興味・関心を持って取り組むことのできる内容を提供して頂ければと思います。また、ボランティアに関しては、仕事という視点から企業等の社員にボランティアとして関わってもらい、プロボノ活用や、社会・人生経験があり奉仕精神のある高齢者を地域のボランティア先生としてうまく活用する等、多様な関係者へのネットワークを少しずつ構築していくことで人的リソース不足を解消していくことにつなげることができると思います。ぜひ、がんばってください。</p>

令和元年度実施分協働事業 協働のまちづくり協議会からのコメント

事業名	団体名	評価(コメント・アドバイス等)
笑劇で施設利用高齢者を元気にする事業	浅間台笑劇研究部	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 高齢者施設での公演は計画数を超えて実施され、参加者、施設にも高評価だったことは励みになりますね。コロナ禍での施設訪問は制限されていると思いますが、活動そのものを継続できるよう工夫、検討されることに期待します。</li> <li>● 高齢者施設でのボランティア公演、松戸市民劇場での公演など多様な活動を数多く実施したエネルギーに感服します。貴団体の会員(演じる人)と観る人ともに良き時間を共有できたと思います。</li> <li>● 浅間台笑劇研究部の活動は年々パワーアップをしていて、今年度はついに念願の市民劇場に於ける新春公演を実現し、大成功を収めた様です。さらに普段の活動も年間13回の施設訪問を実現し、団員の皆様はほぼ毎日この活動に関わっているのではと思います。年齢のこともありますので、お疲れではないかと思いましたが、質問の回答で部員皆様の生き甲斐であり、モチベーションは高いとのお話がありました。演劇を見た人が幸せになり、演じている人たちも幸せに感じるこのような活動は、ボランティアの理想ではないかと思えます。末永く持続してください。</li> <li>● 参加者の数が多くて、公演の内容や人気も高いように感じました。また、アンケートによる満足度も高いため、今後もぜひ継続して笑顔の松戸市をつくって頂きたいと思えます。</li> </ul>

令和元年度実施分協働事業 協働のまちづくり協議会からのコメント

事業名	団体名	評価(コメント・アドバイス等)
生活圏に「お節介な友達作り」活動推進事業	介護・認知症の家族と歩む会・松戸	<p>●相談者、参加者が少人数であっても定期的に継続して開催されたことで、これだけ多くの方々の悩みに対応できたことは大きな成果です。相談内容によっては、経験知で解決しないこともあるかと思いますが、関係機関につなぐなども大切かと思います。</p> <p>●「おしゃべり広場」は、本事業の目玉だと期待しておりましたが、目論見どおりにいかず残念でした。本事業での反省と改善点を踏まえた今後の取組に期待します。</p> <p>●想定よりも多い件数の「訪問相談」は、その取組を欲する市民ニーズの存在と、それに応える能力と体制が課題にあると気づいたことが成果だと思います。貴団体で向き合うのと併せて、ほかの団体や機関の力を借りる選択肢も検討されることを勧めます。</p> <p>●認知症は今後益々重要な問題になると思われます。私の身近でも、知り合いの親や本人自身が認知症にかかり、周りの方々が苦勞されている例を多く目にするようになり、大変身近に感じています。そんな中でこの様な活動があることは大変心強く感じます。「おしゃべり広場」「相談会・交流会」「講座」「訪問相談」と多彩な場を設け、個々の参加者数は多くは無くても真摯に対応をしている様子が伺えます。活動する場を色々と工夫をしておられる様で、この活動が継続していくことを期待しています。</p> <p>●「おしゃべり広場」、「相談会・交流会」、そして「講座」と幅広く活動し、良い意味での「お節介」が地域社会で「誰ひとり取り残さない」ことにつながっているように思います。「誰ひとり取り残さない」という文言は、2015年に国連が定めたSDGs(持続可能な開発目標)のスローガンにもなっていることから、世界目標にベクトルを向けて十分に貢献していると言えます。また、福祉という枠だけでなく、生活圏という視点から様々なネットワークを活かした仲間づくりに努めているところも良い視点であると思います。</p>

令和元年度実施分協働事業 協働のまちづくり協議会からのコメント

事業名	団体名	評価(コメント・アドバイス等)
市民の権利擁護に関する啓蒙普及事業	一般社団法人コスモス成年後見サポートセンター千葉県支部	<ul style="list-style-type: none"> <li>●本事業の主題「市民の権利擁護」は、人の終末に至る過程および死後において時間差で生じる個別の問題でなく、事前に準備しておく総合的な問題であると位置づけた、たいへん面白い切り口だと思います。</li> <li>●とくに注目したいのは市内3か所で催した講演会およびワークショップを介して医師や弁護士、地域包括支援センターの職員が、この問題の大切さを認識したという点です。その気づきを土台に専門家どうしの連携態勢を構築されていくことを期待します。</li> <li>●今後益々高齢化社会に進む日本において、必ず訪れる「死」に関わる諸問題は避けては通れない事と思います。参加者の内訳を見ますと70代・女性が圧倒的に多いのは、残される立場であるとの自覚が大きい結果ではないでしょうか。「終活」という言葉も一般的になってきましたが、では何から始めたら良いのか分からないところで立ち止まっている方も多いと思います。そんな中でこの活動のように専門家の方が開催するワークショップは強い味方になります。いつ来るか分からないけど必ず訪れる「死」を前にして、この活動が有意義であることが理解できます。今後の更なる活動を期待します。</li> <li>●報告書にも書かれていましたが、市民擁護を考える上で、医療・福祉・行政と法律の連携はより一層必要になってくると思います。市や専門家と協力しながら、ぜひ、高齢者が権利の擁護と財産の管理を適切且つ円滑に進めることができるよう、本活動を継続して頂ければと思います。</li> <li>●本人の考えをまとめるのと周りに自分の考えを理解してもらう意味で、エンディングノートを普及させる活動は多いに良いかと思います。皆さんで話し合うことも大事ですのもっと広めて下さい。</li> </ul>